

【第3号議案】

平成26年度事業計画書（案）

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

一般社団法人日本エスコフィエ協会

事業名	事業内容
出版	・『エスコフィエの技 現代の術』の販売を通じて若手料理人の育成を目指し、エスコフィエの料理技術の保存及び技術向上を図り、本年は600部を販売予定である。
会報	・エスコフィエ通信の定期発行（年4回 4、7、10、1月）を行う。 発行部数は各2,300部×4回を予定し、会員及び一般に広くフランス料理に関する情報と協会の活動内容を伝える。広告収入の増加を図り経費負担を減らしたい。
広報	・ホームページ上にフランス料理に関する最新の情報及び協会活動を紹介する。特に本年度は2年に一度の料理コンクールの開催年でもあり、参加者数の増大を図りたい。
講習会・講演会	・総会当日、料理の技術・文化・歴史に関する講演会とフランス料理の最新技術の発表を兼ねた晚餐会（400名以上）を開催する。 2014年6月20日（金）ホテルグランヴィア京都。 講演者：村田吉弘氏（京都・懐石料理 菊乃井 代表）
料理フランス語 通信教育	・「料理フランス語通信講座」（日仏料理協会との共催）の実施 ・初級会話編、上級ルセット編に分かれ、春学期、秋学期、冬学期の年3学期制。26年度 計10名の予定。
国際交流	・ディシプル・アンテルナショナル、フォンダシオン、及びスイス、中国をはじめとする外国のエスコフィエ協会との交流を促進する。 ・世界連盟総会に役員が出席し当協会の意見を提言する。
フランス料理 勉強会	・「温故知新」をテーマにした勉強会は、フランス料理の原点を学び、それを如何に今日に活かしていくかを追求する活動である。 ・過去のコンクールの決勝課題料理を検証する。そのため、コンクール優勝者に勉強会に参加してもらい、より具体的な検証結果を求めていきたい。 ・現在の実行委員メンバーの後輩を育成する事も重要な課題である。登録メンバー制も軌道に乗せたい。
フランス料理 コンクール	・フランス料理の基本技術の継承と将来を担う料理人の育成を目的とする「第7回エスコフィエ・フランス料理コンクール」を開催する。 協賛企業への募金活動及びマスコミを通じて参加者を募る活動を行う。 後援：農林水産省、フランス農業・農産加工業・林業省、ソペクサ・ジャポン、（予定 文部科学省） 予選課題：『国産鹿肉の温製料理』 <スケジュール> 応募ルセット締切 2014年6月25日（水） 予 選書類審査 2014年7月3日（木）

	<p>準決勝・(東日本) 2014年7月24日(木) 会場：後藤学園 武蔵野調理師専門学校</p> <p>(西日本) 2014年7月29日(火) 会場：辻調グループ校 エコール辻 大阪</p> <p>決 勝 2014年8月28日(木) 会場：食糧学院 東京調理師専門学校</p> <p><選考方法></p> <p>予 選：出題テーマのルセットによる書類審査 準決勝：出題テーマの料理作成、実技審査、作品審査 決 勝：当日発表テーマの料理作成、実技審査、作品審査</p> <p><表 彰></p> <p>表彰式 2014年8月28日(木)</p> <p>優 勝：トロフィー及びディプロム、賞金30万円、副賞 2 位：トロフィー及びディプロム、副賞 3 位：トロフィー及びディプロム、副賞 入 賞：ディプロム、副賞 授与</p>
震災被災地支援	<ul style="list-style-type: none"> ・復興庁主催の被災地3県を含む東北地方農産物振興を目的とする活動に協力する。 ・ほか被災地の状況に応じて支援活動を行う。
『母と子のキャンプ』調理指導	<ul style="list-style-type: none"> ・地方の母子寡婦福祉連合会との連携によるキャンプ料理を指導する。 <p>2014年10月4日 財団法人徳島県母子寡婦福祉連合会主催の「国立淡路青少年交流の家」のキャンプに協力予定。</p>
社会福祉食事会	<ul style="list-style-type: none"> ・身体に軽い障害をお持ちの方とその介助の方を対象とした食事会。 <p>「第27回 ホテルでフランス料理を楽しむ社会福祉食事会」をホテルモントレエーデルホフ札幌(山中日出男統括料理長)にて2014年7月8日に開催。</p>
親睦事業	<ul style="list-style-type: none"> ・新規入会者(アミ会員、賛助会員)への会員証(ディプロム、エンブレム)の送付。 ・団体賛助会員である調理師学校の優秀生徒へ「エスコフィエ協会優秀奨励賞」のディプロムを授与する。 ・ディシプル章授与。 ・会員名簿の平成26年度補遺版を発行する。